

商大雪あかりの路2006



昨年度に引き続き、二度目の「商大雪あかりの路」の開催となりましたが、今年度は、小樽市のイベント名の由来である「雪明りの路」の作者であり、本学ゆかりの作家、伊藤整の詩集「冬夜」からプロジェクト名をいただき、若手職員を中心にプロジェクトチームを結成し、活動を続けてきました。

今年度のプロジェクトでは、イベントに商大の独自色を盛り込むというコンセプトにより、12月にイルミネーションイベントの開催、また、商大オリジナル作成方式によるアイスクンドルの誕生など、新しいカラーを打ち出すことが出来たと考えています。

「雪あかりの路」の開催期間が、本学の定期試験期間と重なっていたため、本来大学の主役である「学生」の参加が少なかったこと、そして、素晴らしい物を作り上げながら、PRが十分ではなかったため、一般市民や観光客を呼び込むことができなかったことが、課題として残りましたが、今年度のプロジェクトチームの役割は、昨年度の初参加時に蒔かれた種に、水を与えることだったと思っています。

この先「商大雪あかりの路」というイベントが、より多くの学生、教職員の参加を生みつつ引き継がれ、新しい芽を出し、花を咲かせていくことに、心から期待したいと思います。

川本 雅史 (商大雪あかりの路2006プロジェクトチーム
“Project冬夜”代表)



プロジェクトチームメンバー

